

令和 5 年 第 7 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和5年6月30日(金)

開会午後1時00分、閉会午後1時43分

II 場所

県庁4階大会議室

III 出席委員

1番	黒田 卓	2番	町野 利道	3番	村上 美也子
4番	坪池 宏	5番	大西 ゆかり	教育長	荻布 佳子

IV 説明出席者

理事・教育次長	水落 仁	教育次長	中崎 健志
参事・教育企画課長	福島 潔		
教育企画課課長(高校跡地活用・学校施設担当)		中家 立雄	
教育企画課課長(ICT教育推進担当)	小林 匠		
生涯学習・文化財室長	辻 ゆかり	教職員課長	板倉 由美子
教育参事・県立学校課長	番留 幸雄	小中学校課長	山尾 佳充
保健体育課長	大島 一恵		

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後1時00分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

令和5年5月26日開催の令和5年第6回富山県教育委員会会議録
会議録閲覧
荻布教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 報告事項

- (1) 臨時代理について(令和5年6月富山県議会定例会に付議する事案に対する意見に関する件)
教育企画課長から説明した。
- (2) 令和6年度富山県公立学校教員採用選考検査志願状況について
教職員課長から説明した。
- (3) 臨時代理について(教育職員の人事異動に関する件)
教職員課長から説明した。
- (4) 第1回県立高校教育振興検討会議の開催結果について
県立学校課長から説明した。

3 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

4 議決事項

午後1時21分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定に基づき、議案第21号から議案第23号および報告事項1件については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第 21 号 富山県生涯学習審議会委員任命の件および議案第 22 号 富山県社会教育委員委嘱の件
生涯学習・文化財室長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第 23 号 富山県いじめ防止対策推進委員会委員任命の件
小中学校課長から説明し、原案のとおり可決した。

5 報告事項

(5) 臨時代理について（令和 6 年度使用義務教育諸学校用教科用図書採択の件）

小中学校課長から説明した。

なお、非公開で審議した議案第 21 号から議案第 23 号および報告事項 1 件については、適切な時期に公表することを決定した。

6 議事

○報告事項(4)関係

〔村上委員〕

・今後の予定のところで、県立高校の学科やコースの見直しについて検討とあるが、学科とかコースは最終的にはどこで決定するものか。

〔県立学校課長〕

・県教育委員会になる。プロセスとしては、ここでいろんな案を出してご意見をいただいて、各学校の話も聞きながら案をたてて、ここで諮らせていただく。

〔教育長〕

・各学校も一生懸命アイデアを出すと思うが、最終的にはバランスをふまえた上でということだ。

○その他

〔大西委員〕

・教員採用選考検査の志願状況について、少し倍率が上がったものの募集人員も減ったからということで厳しい状況とお聞きした。合格された後の教員の方々についてだが、先生方がいきいきと子ども達に向き合ってもらえるように、大卒の新規採用教員に、たとえば一人で担任をもたせないとか、負担を軽くするとか、相談できる体制を整えるとか、他にもあらゆる世代の教職員の方が離職されることを減らすための工夫を併せてお願いしたい。

・6月に県立高校で体育大会が行われて、最初から最後まで保護者として見させていただいた。非常に子ども達がいきいきとして、生徒たちが自ら創り上げる体育大会を満喫していたと感じた。保護者の観覧者数もものすごく多くて、コロナが明けて保護者も子ども達も本当に楽しみにしていたのだなと感じたところだ。小中学校の方も5月を中心に体育大会が行われていると聞いているが、射水市では運動会や体育大会といわずにスポーツフェスティバルという名前になって半日開催である。今後もそうすることになったと聞いた。学習発表会なども同様に1日開催ではなくて、午後からは例えばPTAが主催する教育講演会などを組み合わせて、土曜日に開催すると聞いている。これらは先生の負担軽減、働き方改革のためなのかなと保護者としては解釈、理解しているようなのだが、子ども達がコロナが5類に引き下げられて、マスクを取っていきいきと精一杯体育大会で競技をしたり応援したりする姿を見るにつけても、運動会や文化祭で培われるような、地域に開かれた学校というか、隣の石川県に比べても富山県は小中学校が地域に開かれているなという印象を持っている。それが行事の中で子ども達が、自分たちの学校がお父さんお母さん、家族、それから地域に取り巻かれているという認識を育んでいるのではないかと感じている。今はコミュニティスクールなど新しい形もあるが、まだそれが定着しない中、小中学生が地域から離れていかないかとちょっと心配している。

〔町野委員〕

- ・教員の採用数の年度ごとの変動だが、今まで退職者が多いのでこういうふうに変動していると思うのだが、10%以上毎年変動するのもどうなのかなと思う。たとえば3年、4年先まで見えるわけだから。今年は12%だが、変動しすぎではないかと思うのだが、いかがなものか。

[教職員課長]

- ・基本的に採用数というのは、定年を含めた退職者数と再任用を希望して退職後も引き続き働きたいという方の希望をとった数をもって採用者数を決めていくことになる。退職者数が多ければ必然と採用数が多くなっていくが、本県では退職者のヤマというか、第2次ベビーブームの子ども達のために採用していた頃の先生方が一斉に辞められるヤマを見越して、前倒しで平準化を図る意味で採用を増やしていたという時期が、今の表にある300人台をずっと維持しているというところだ。この後、子どもの数も減っていくし、公務員の定年が令和5年度から2年に1歳ずつ延長されるということで、令和5年度末は定年退職者数がゼロになる。令和6年度末には61歳定年退職の方が出られるという歪な退職者数が数年続く。65歳までの定年が完結するまで続くのだが、そういうことを抑えるためにも今回は急激な採用予定者数の減少にならないように考慮して、300という逆に平準化を図ったような対応をしている。

午後1時43分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。